



## 野菜栽培における農業集落排水おでい肥料の施用基準

県内には35カ所の農業集落排水処理施設があり、排水処理時に産出されるおでいを肥料として有効利用するため、露地野菜栽培に対する適正施用量を検討しました。

おでい肥料には窒素3～5%、リン酸3～4%、加里0.3%程度を含みますが、速効性のアンモニア態窒素を約2%含み、100kg/10a施用で約2kgの窒素の肥効が期待できます。

露地野菜で栽培試験を実施した結果、おでい肥料の基肥施用量は窒素で約10kgの肥効が期待できる500kg/10aまでとし、追肥は化成肥料を施用するのが良いことがわかりました。基肥におでい肥料を500kg/10a以上施用すると葉中の硝酸含量が増加します。独特の臭気がありますので、施用後は速やかに耕うんして土壌とよく混和しましょう。

表 おでい肥料の施用基準

品 目	施 用 時 期 及 び 施 用 量
コマツナ (夏作)	基肥として播種1週間前に10a当たり300～400kgを全面施用する。 追肥は施用しない。
コマツナ (冬作)	基肥として播種1週間前に10a当たり100～200kgを全面施用する。 基肥の窒素施肥基準量の半量分(5kg/10a)を化成肥料で施用する。 追肥は施用しない。
ホウレンソウ	基肥として播種1週間前に10a当たり200～300kgを全面施用し、 基肥の窒素施肥基準量の半量分(7kg/10a)を化成肥料で施用する。 追肥は化成肥料を施用する。
ブロッコリー	基肥として播種1週間前に10a当たり500kgを全面施用する。 基肥の窒素施肥基準量の半量分(9kg/10a)を化成肥料で施用する。 追肥は化成肥料を施用する。
洋ニンジン	基肥として播種1週間前に10a当たり200kgを全面施用し、 基肥の窒素施肥基準量の半量分(10kg/10a)を化成肥料で施用する。 追肥は施用しない。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

農業研究所

生産環境担当

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>